

●次をめざす充実した解説書！

[詳解]

# 中医基礎理論

著者：劉燕池 宋天彬 張瑞馥 董連栄

監訳：浅川要 翻訳者 13名

B5判 368頁 並装 定価：本体 4,500円+税（送料 300円）

初級から中級へ――――――  
中医基礎理論をより深く理解するための  
一步進んだ中級用解説書！



本書の原本『中医基礎理論問答』（上海科技出版社 1982年刊）が出版された80年代初期は、文革によるさまざまな制約から解放された中医派が、中医の再興を目指して最も精力的に活躍した輝かしい時代であり、歴史に残る優れた書籍が数多く出版されている。本書は、こうした活気に満ちた時代に、当時の最先端を行く執筆者たちが全精力を注いで書いた誠に意欲的な書籍である。

本書は、創設されたばかりの大学院の学生向けに、中医学の真髄をより深く理解させるために編纂された中級用副読本である。初級用教材『中医学基礎理論』を学んだ学生たちが、貪るように読んだといわれる定評ある本である。教科書について最も多く読まれた書籍といわれる。

Q&A方式  
220問

ご注文は FAX専用フリーダイヤルで 今すぐにFAX 0120—727—060

## ■ 220 の設問に答えるQ&A方式

全体は、「緒論」「気一元論・陰陽学説・五行学説」「臓腑経絡」「病因病機」「診法「弁証」「症例分析」「治則治法」……に分類され、ポイントとなるテーマ 212 項目を重点的に解説する。読者の必要に応じて知識を深めることができる。

## ■ 最新学説を加筆増補した手応えのある基礎理論。最新の研究成果を反映する高レベルの内容

陰陽・五行学説を統合する形で新たに「気一元論」が加えられ、気の位置付けが一層明確になった。「気一元論」が展開された書籍は、本書が初めてである。五行学説は、これまでの平面的・静止的な捉え方から立体的・動態的な捉え方に変化している。

## ■ 「症例分析」——症例に対する弁証論治は初級から中級へ進む人の必読の内容

中医学の基礎理論を学んだあと、その知識を臨床でいかに應用するかは、われわれ日本人にとって、最も関心のあることである。しかし残念ながら、日本人の要求に応えてくれるような親切な解説書は、今のところ中国には見当たらない。中国では臨床実習において教師が丁寧に教えてくれるから、そこまで親切に解説する必要がないためだろうか。われわれが接した多くの書籍の中で、唯一本書のみが、われわれの願望に応えてくれる解説書である。

## 病因病機

Q 64

中医学の病因学説はどのように形成されたか？ またその特徴は？

自然界の一切の事物は、すべてが相互関連の中で運動し変化している。その中に因果関係といわれる 1 つの普遍的関係が存在する。その先駆的な記述として『内經』には「風なるものは百病の始なり」（『素問』骨空論）とある。これは多くの疾患と、気候の変化および空気中のある要素との間に関連性があると指摘したものである。また、「百病は氣より生ずる」（『素問』掌痛論）との記述もあるが、これは多くの疾病と、機能亢進・機能低下などの不調な状態との間に関連性があることを示している。現代医学的観点からみても、空気中の細菌によって引き起こされる気道感染症などの疾患は確かにありし、それがそのままの疾患の先導役となることは多い。また七情の刺激や過労などによって引き起こされる機能不調も、多くの疾患の主要原因である。先人が豊富な生活経験と医療経験の蓄積の上に立って構築した理論には、確かに統計学的根拠も認められるのである。後世の医家はこの理論を発展させ、病因にもとづいて疾病を外感と内傷の 2 種に大きく分類した。例えば『内經』の中には、病因を大きく陰・陽の 2 種に分類し、六淫などの外感的要素を陽に、房事・労倦や七情などの内傷的因素を陰に属するものとする記述がある。この記述における認識は、マクロ的水準にとどまっているものの、その後には、透徹した洞察が秘められている。当時の条件の下では、ミクロ的现象を具体的に理解する術はなかったためにかえって、痰氣・毒氣・屍虫・瘀血・蟲毒などについての認識が示すような、透徹した想像と推測をはたらかせることとなつたのである。

中医学は、サイバネティックスのブラック・ボックス理論と類する方法を用いて内的・外的環境が生体の機能状態におよぼす影響についての総合的な認識を有していた。中医学は、まず生体の反応性を追求し、多くの内的・外的要素が人体におよぼす総合作用を概括した。それにより、人体の反応状態と、外部環境の変化など多様な要因を総合的に判断し、有効な治療手段を導き出すという方法論を確立した。これがいわゆる「辨証・求因」である。

漢代の張仲景は『金匱要略』の中で、病因をさらに 3 種に分類し、病因についての

Q 51

気の昇降出入は、臓腑の生理機能の上でどのように現れるのか？

気の昇降出入は「氣機昇降」ともいい表され、気の人体内での運動の最も基本となる形式である。人体の臓腑・経絡・腠理・官竅などは、いずれも気の昇降出入する場所である。したがって、『素問』六微旨大論では「昇降出入、器に有らざるものなし（器ならすべて昇降出入がある）」と述べている。気の昇降規律は、主に臓腑の各種機能と物質代謝に現れている。人体は 1 個の統一のされた整体であるが、その統一は一般に次のようないくつかの形で保たれている。心肺は上にあるが、上にあるものは降りるのがよい。肝腎は下にあるが、下のものは昇るのがよい。脾胃は中央にあり、上下昇降の軸にあたる。肺気が清肅下降し、肝気が条達昇發することによって、気機がのびやかに調い、氣血が上下に通達する。上界を主る（昇清）脾氣と、下降を主る（降濁）胃気が協力することによって、飲食物の消化・吸収・輸布・排泄が維持される。心は火であり、上有る。心火は下って腎水を助けて、腎水が發揮されないようにする。腎は水であり、下に位置する。腎水は上って心陰を滋養して、心陽が強り亢進しないようにする。このような水火（心腎）の上下動して動く関係を、中医学では「心腎相交」あるいは「水火既濟」という。気機の運動は、生命活動を維持する根本である。そのため『素問』六微旨大論では「出入するときは則ち神機化減し、昇降息むときは則ち氣立孤危。ゆえに出入あらざることは則ちもって生長壯老すること無きのみ。昇降あらざることは則ちもって生長化收藏することなし」と述べられている。つまり、気の昇降出入運動は、生命活動のはじめから終わりにいたるまで存在するもので、もしいたんこの気機の運動が停止すれば生命活動も終わるのである。

Q 52

血液の生成と運行の仕組みは？ それはどの臓器と関係が深いのか？

中医学では血液の生には、主に脾腎と腎とが深く関係すると認識している。脾腎は气血生の源であって、脾腎において消化吸収された水穀の精微物質が変化することによって血液が作られる。血の生成について、『靈樞』決氣篇には「中焦氣を受け計を取り変して赤。これを血という」とある。また邪客篇では「營氣はその津液を認し、これを脈に注し化してもって血となす」と述べている。また中医学では、精と血は互いに化生しあうと考えている。腎は精を藏し、骨を主り、髓を生じる。精と髓は化生して血となる。これについて『張氏医通』には「精が泄れなければ、精を肝に帰し清血と化す」とある。

104

## [目次の一部]

### 【諸論】

- 1 中医学とはなにか？ またこれをいかに学ぶべきか？
- 2 中医学理論はいかなる時代に形成されたか？ またその形成過程において基礎となったのはなにか？

### 【気一元論・陰陽学説・五行学説】

- 4 気一元論の基本的な内容はどういうものが含まれるか？
- 5 気一元論、つまり元氣論の考え方は中国医学の理論体系の中でどのように貫かれ应用されて

### いるのか？

- 14 現在、陰陽学説に対して行われている研究の現代的な認識と理解に関する試論

### 【臓腑経絡】

- 28 「脾は運化を主る」と「脾氣は昇を主る」とは？ 脾の統血作用の臨床上の意味は？
- 31 腎陰・腎陽・腎精・腎氣とは？ またそれらの間の関係は？
- 54 臓腑機能との関わりにおいて、気と血はどのような相互関係があるのか？

### 【病因病機】

- 80 湿の性質は重濁なので、水液の混濁は湿に属するはずなのに、どうして「諸転反戻して、水液混濁するものは皆熱に属す」というのか？
- 118 不眠・嗜眠の病理機序は？ その原因にはどのようなものがあるか？

### 【弁証】

- 138 寒熱錯雜と寒熱転化は、臨床においてどのような意味をもつのか？
- 148 なぜ陰陽が八綱弁証の総綱といわれるのか？ 阴証・陽証の臨床症状はなにか？
- 159 氣血両虛・氣虛失血・氣隨血脫とは？ その症状にはどのような違いがあるか？ またどのように立法して治療するか？
- 160 臨床でよくみられる風寒・熱痰・寒痰・湿痰・燥痰などの証はどのように鑑別するか？

- 180 肝氣横逆と肝氣鬱結の区別とその臨床的意義は？
- 196 肝脾不調と肝胃不和の鑑別は？

- 197 肺腎陰虚と肝火犯肺の両証の病因、病理機序、および臨床的鑑別は？
- 198 六經弁証とはなにか？ 六經弁証の臨床的意義と、『内經』の六經分証との違いは？
- 199 『傷寒論』の六經と臓腑経絡の関係は？
- 200 六經伝变の「伝經」「合病」「併病」「直中」とは？
- 208 三焦弁証とは？ 三焦弁証

と衛氣營血弁証には、どのような関係があるか？

### 【症例分析】

- 215 臨床上、症例をどのように分析していくのか？

### 【治則と治法】

- 216 「標」「本」とは？ 「治病求本」はどのように理解したらよいか？
- 219 扶正去邪とは？ またその運用は？

(全 220 問)